

7月末から始まったちゅら島高校総体、これからが本番です。炎天下・猛暑の中で繰り広げられる全国の高校生たち代表の熱戦、皆様のご協力のもと無事故で乗り切りましょう。

5月26日日本医師会館において女性医師支援担当理事連絡協議会が開催されました。女性医師等就労環境改善緊急対策事業の予算が、H21年度予算執行率が低かった為、今年度は大幅に減額されました。今年度は女性医師支援センターの様々な活動が予定されており、是非目を通して下さい。中部病院の女医ナースの今年の新人歓迎会兼親睦会では、女性医師の現状と必要な支援体制について女性医師部会主催出前事業プチフォーラムを開催しました。この出前事業はいくつかの医療機関での開催が予定されており、この事業を通して女性医師の活躍しやすい職場作りが進むことを願っています。

第110回沖縄県医学会総会が6月13日に開催されました。研修医の先生方、開業医の先生方の興味ある質の高い発表があり、質疑応答での情報交換は病診連携の出発点となっています。この様な質の高い県医学会は沖縄独特で、しかも明治26年から開催されている伝統のある学会であり、多くの会員の学会への参加でさらなる発展を期待します。

緑陰随筆は11名の先生から寄せられました。山内桃子先生のマイクロネシアの貴重な思い出と医師立志記、嶺井定一先生の酒物語とWhiskyへの一途な想い、澤岬安教先生の高校野球と大学受験から見える沖縄の若者の活躍への期待、島袋善盛先生のゴルフ参戦とマーラー交響曲鑑賞記、国島睦意先生の珍花緑の桜・御意黄への想い、嘉数朗先生のたかがサーフィン、されどサーフィンの波に乗るまでの奮闘記、向山秀樹先生の高い沖縄の医療レベルについての考察、比嘉耕一先生の不思議の国アリス イン ワンダーランド映画鑑賞の勧め、玉城信光先生の男女の違いを描く日常生活のワンシーン、宮良球一郎先生の幼いころの思い出を絡めたハルサーへの道程、安里浩亮先生の心弁膜置換術と出産から体験した5人の逞しい女性記と心に残る文章ばかりです。

表紙は本永英治先生の大神島、沖縄の筆舌に尽くしがたい豊かな自然の切り抜きと民話をお届けします。子や孫に残していきたい沖縄の宝物です。

第1回沖縄県・沖縄県医師会連絡協議会は医師会から提案し保健・医療・福祉について県と協議しました。県では保健所医師2名欠員があり、保健行政に志のある若い医師を募集しています。

九州医師会連合会第311回常任委員会では新型インフルエンザ流行への対策の総括と次のパンデミックへの対策への取り組みが報告されました。各医師会、医療機関においても致死率の高い新型インフルエンザの流行の可能性を考え十分な対策を練って下さい。また、九州各県の地域医療を守る取り組みが報告されました。これらの各地区の対策を参考にしながら、各地区ごとの特色ある取り組みに精力的に取り組んでいく必要があります。

新垣哲先生旭日双光章受章おめでとうございます。50年にわたる沖縄県の医療への貢献と「生涯現役で益々頑張っていきたい」との言葉に私たち後輩も負けてはいられません。

今月の生涯教育コーナーは最近臨床像が明らかになりつつある「脳脊髄液減少症」について、診断、治療、問題点について分かり易くまとめられています。頭痛、めまい、耳鳴り、思考力低下、全身倦怠感など様々な症状がみられ、原因不明とされてきた患者さんの中にまぎれているようです。

プライマリケアコーナーは腫瘍熱について熱型、発熱に伴う症状、全身状態、比較的徐脈について分析し、発熱した患者さんへのアプローチの仕方を詳細に検討しています。

インタビューコーナーは琉球大学医学部附属病院がんセンター長の増田昌人先生です。現在死因の第1位である癌については、県内各医療機関の癌診療についての連携、骨髄移植を含めた先進医療の導入と確立、緩和ケアの確立、県民への啓蒙活動とよろず相談と様々な活動が展開されており、会員の皆様にも積極的に関わっていただきたい問題の一つです。

6月23日慰霊の日に、戦没者への鎮魂の祈りと日頃の生活習慣への反省を込めて、北部地区医師会役員でミニ断食に取り組みました。平和な沖縄と、今沖縄を襲っている飽食の暴風を思い、今月も終戦記念日にミニ断食に取り組みたいと思います。

広報委員 石川 清和